

令和2年度

鳴門市鳴門中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学習指導の在り方
- ①基礎的・基本的な知識・技能を伸ばし、個に応じた指導を充実させる。
 - ②自分の課題を見つけ、対話的な活動を通じて解決していく態度を育成する。

学力向上検討委員会構成

- | | |
|---------|--|
| 学力向上推進員 | 委員 |
| | 校長, 教頭, 教務主任, 研修主任,
1学年主任, 2学年主任, 3学年主任 |

校長



◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○指示された課題に対して真面目に取り組むことができる。 ○短時間ごとに区切れれば、集中して学習に取り組むことができる。 ●課題の提出率が悪い。	・基礎・基本を確認する校内テストを実施し、目標を達成する。 ・ワーク等の課題を全員がやり遂げて、期限までに提出することができる。	・基礎・基本を抜き出した確認テストを学期に2回(定期テスト前)作成し、実施する。 ・3分前復習の徹底を図る。		・今年度は休校による授業の取り返しのために、定期テスト前の校内コンテストは実施できなかった。 ・生徒への声かけを行い、授業開始3分前復習を概ね徹底させることができた。	・授業開始3分前復習の時間を設定し、課題も与えているが、基礎学力として定着しているかを検証する必要がある。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを進んで発言することができる。 ○ペア学習や班活動では積極的に参加し、協力することができる。 ●発言する生徒が限定されている学年がある。	・授業の中で、自分の考えを表現することができる。 ・自分の考えを深く考えたり、発信したりする活動に積極的に参加する。	・自分の考えたことを記述させることで、深めたり、比較したりさせる。 ・自分の考えを表現・発信する場を効果的に設定する。		・プリントによる演習時間には、お互いに教え合いをする時間を設定することで、自分の言葉で説明する姿が見られた。 ・道徳の授業では全ての学級でペアで話し合う時間を設定することができた。 ・87%の生徒が「グループで調べたり話し合ったりする学習が好き」と答えている。	・話し合う機会を設けることは全教科で意識的に行うことができた。次年度はより深い学びにつながるようするために各教科で工夫する必要がある。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○生徒会が主体的に企画し、「授業3分前復習」に全校生徒で取り組むことができている。 ●わからない問題を放置してしまう。 ●自主学習ノートが上手く活用できていない。	・3分前復習に意欲的に取り組むことができる。 ・周囲と協力して、問題を解決することができる。 ・自主学習ノートを活用して、基礎・基本	・短時間で取り組める学習方法や、効果的な復習方法を指導する。 ・自主学習ノートの使い方を指導し、効果的に活用をさせる。		・ノートの使い方や、学習方法を繰り返し指導した。 ・学習評価アンケートでは、93%の生徒が「先生は毎日の授業を分かりやすく教えてくれる」と回答している。	・家庭での学習や、自主勉強ノートの活用法を習慣として定着させるために、学校での指導と並行して、家庭との連携を深める必要がある。

令和2年度 学力向上ロードマップ

